

地質調査・解析業務特記仕様書

第1章 総則

(適用)

第1条 本特記仕様書は、「総合福祉センター実施設計業務」のうち、外構及び駐車場等の整備に係る地質調査・解析（以下「本業務」という。）に適用する。

2 この特記仕様書は、「地質・土質調査共通仕様書」(令和7年4月宮崎県県土整備部)、「設計業務等共通仕様書」(令和8年2月)宮崎県県土整備部)、地盤調査の方法と解説((公社)地盤工学会)その他関係示方書及び調査職員の指示に従い実施する。

3 本業務の数量・規格等は、単価抜設計書の「設計業務費内訳表」の費目工種種別細別・規格、数量(単位)、「明細表」の名称・規格、数量(単位)、「単価表」の名称・規格、数量(単位)によるものとする。

第2章 業務内容

(業務内容)

第2条 本業務内容は各号のとおりとする。

- (1) 個々のボーリング孔の条件は次のとおり。
- (2) ボーリング位置の決定は調査職員と現地立会の上、決定するものとする。
- (3) ボーリング作業終了深度については、土質やN値等で掘進深さを変更するので、調査職員と協議の上、その指示に従うものとする。
- (4) ボーリング作業中は、標高、地質分類厚、N値等を測定するとともに、地下水位の測定及びコアの採取に努め、標本箱にはボーリングナンバー、標高等を記入し、調査員が立ち会う場合、ただちにその地点の地層、N値が判断できるように整理しておくものとする。

No.	掘削方向	コア区分	掘進延長						
			砂・砂質土 φ 66	粘土・シルト φ 66	砂・砂質土 φ 116	粘土・シルト φ 116	軟岩 φ 66	中硬岩 φ 66	
1	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
2	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
3	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
4	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
5	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
6	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
7	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
8	鉛直方向	オールコア	19.5m	7	3	3	0	1.5	5
9	鉛直方向	オールコア	18m	2	1.5	3	3	2.5	6
10	鉛直方向	オールコア	18m	2	1.5	3	3	2.5	6
11	鉛直方向	オールコア	18m	2	1.5	3	3	2.5	6
12	鉛直方向	オールコア	18m	2	1.5	3	3	2.5	6

ロータリー式二重管サンプラー（粘性土）N=4 本

ロータリー式三重管サンプラー（砂質土）N=12 本

土の粒度試験 ふるい分析 試料（0.5kg 未満）N=16 試料

- (5) 土質の分類は JIG0051（地盤在庁の工学的分類方法）による。
- (6) 標準貫入試験は J I S A—1 2 1 9 により実施し、1.0 m 間隔とする。
- (7) 踏み荒らし、伐採等については、最小限に留め終了後の原形復旧等は、すべて受注者により行うものとする。
- (8) 土質試験項目及び試験数量は下記のとおりとする。（1 箇所あたり）

- ・室内 CBR 用試料採取 1 試料
- ・設計 CBR 試験 1 試料
- ・土の含水比試験 1 試料
- ・土の粒度試験 1 試料
- ・土の液性限界試験 1 試料
- ・土の塑性限界試験 1 試料

締め固めた試料を採取することとするが、採取位置等は調査員と協議すること。

なお、試験項目及び数量について変更の要素がある場合も調査員と事前に協議すること。

- (9) CBR 試験を対象敷地内で3箇所実施することとするが、採取位置は監督員の指示による。

2 地質解析業務

ボーリング試料をもとに、当該地域の地質の解析検討を行うものとする。解析検討項目においては、下記のとおりとする。

(1) 資料整理とりまとめ

- ・各種計測結果の評価及び考察（異常データのチェックを含む。）
- ・試料の観察
- ・ボーリング柱状図の作成

(2) 断面図の作成

- ・土質及び土性の判定
- ・土質又は地質断面図の作成（着色を含む。）
- ・その他各種図面類の作成

(3) 総合解析取りまとめ

- ・調査地周辺の地形・地質の検討
- ・地質調査結果に基づく土質定数の判定
- ・地盤の工学的性質の検討と支持地盤の設定
- ・地盤の透水性の検討
- ・調査結果に基づく基礎形成の検討
- ・設計、施工上の留意点の検討